

「置かれた場所で咲きなさい」より抜粋②

11/10/2012

北村社会福祉士事務所

人はどんな境遇でも輝ける。どうしても咲けないときは、下へ下へと根をのばす。つらい日々も、笑える日につながっているのです。ノートルダム清心学園理事長 渡辺和子著（2012/4月 出版元:幻灯舎）

この本より私が気に入った文書を抜粋しました。

・人生にポッカーリ開いた穴からこれまで見えなかったものが見えてくる。

思わぬ不幸な出来事や失敗から、本当に大切なことに気付くことがある。

・時間の使い方は、そのままいのちの使い方になる。

持つことで、心にゆとりができると気づいた時、生きている「^{いま}現在」は、より充実したものになる。

・倒れて立ち上がり、歩き続けることが大切。

時には立ち止まって休んでもいい。再び歩き出せるかが、目標達成の分かれ道。

・希望には叶わないものがあるが、大切なのは希望を持ち続けること。

希望の喪失は、生きる力の喪失でもある。心の支えがあれば、どんなつらい状況でも耐え抜くことができる。

・毎日を「私の一番若い日」として輝いて生きる。

歳をとることは悲しいことではない。新しい何かにチャレンジして、いつも輝いていこう。

・一生の終わりに残るものは、我々が集めたものでなく、我々が与えたものだ。

人は何歳になっても、精神的に成熟することができる。謙虚になることが成熟の証である。

・失ったものを嘆いても前には進めない。悩みを抱えている自分も大切に。

嘆いてばかりいても、悩みも嫉妬も雪だるまのように膨らんでしまう。悩みを抱えている自分をいとおしもう。

・老いは人間をより個性的にするチャンス。

老いは悲しいことばかりではない。人間関係を「量から質」に変え、自分を豊かにすることができる。

・「老い」を意識する時、人はより柔和で謙虚になることができる。

老いた自分を嘆くのではなく、それを受け入れ、「老いは神の賜物」と意識できる自分を目指そう。

・あいさつは「あなたは大切な人」と伝える最良の手段。

目立たない仕事をしている人へのあいさつを忘れてはいけない。私たちはお互いに「おかげさま」で生きているのだから。

以上